
空腹は最高のスパイス

久保田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空腹は最高のスパイス

【Nコード】

N0850W

【作者名】

久保田

【あらすじ】

世界が滅んで唯一、生き残った男は他人を探し続ける。

世界が滅んでから何年経っただろうか。

瓦礫と焦土しかない世界で、私は一人考える。

魔法と見紛うような科学技術の進歩を遂げた社会は、唐突に終わりを告げた。

ある日、寝て起きたら世界が終わっていたのだ。

唐突過ぎて、飲まず食わずで三日三晩ほど走り回るような真似もしてしまった。

時すらコントロールしていた我らが人類はどこへと消えたのだろうか。

今日もいつものようにうろつくと辺りをさ迷う。

昨日は誰とも会わなかった。

だが、今日も誰とも会わない保証はあるまい。

それを考えると、黙って大人しくしている気にもなれない。

まあ案の定、誰とも会えなかったのだが。

何故か無傷で残っている我が家に帰ると、いつものようにカプセルに横たわる。

どういう原理かは知らないが、セーブした自分の時間に戻れるという優れものだ。

これがあれば、どれだけ疲れ切って戻ってこようとも、元の自分に早変わり。

メンテナンスフリーで燃料要らず。

このカプセルが届いたその日に世界が滅亡してしまったのだが。

これで夢の引きこもり生活が出来ると思んでいたのに、何という事だろうか。

しかし、食料一つ無い世界でも生き延びてこられたのだから、カプ

セルを恨むのは筋違いだろう。

明日は腹一杯食べられるだろうか。

私は誰かに会える事を祈って、目を閉じた。
耐え難い餓えを感じながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0850w/>

空腹は最高のスパイス

2011年9月1日06時20分発行